

令和5年度分  
年次報告

上野原市環境基本計画  
上野原市地球温暖化対策実行計画  
(事務事業編)



「未来につなぐ」「心をつなぐ」  
人と自然が響き合う環境まちづくり都市・上野原



上野原市



## 計画概要

上野原市では、平成20年3月に上野原市環境基本計画を策定し、さらに令和2年7月には、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言しその実現に向けた取り組みを推進しています。計画策定以降、生活環境や社会経済状況等は大きく変化し更なる環境保全対策が求められています。このため、国際社会、国及び県等の動向を踏まえ、SDGs(エスディーゼズ:SustainableDevelopmentGoals の略称)の考えを活用しながら、「ゼロカーボンシティ」が実現できるよう総合的かつ計画的に施策を推進するため、令和4年度から令和13年度までの10年間を期間とした第2次上野原市環境基本計画を策定し、施策を展開しています。

## 計画の体系

豊かな自然を将来にわたって維持し、その自然の中で人々が優しさや思いやり、豊かな感性を育み、そして、そのような心を持った人たちによって、環境を地球規模で考え、身近なところから環境保全等に取り組んでいくまちを目指すため、本市が目指す環境像と基本方針を次のように定めます。



## 各基本方針の展開

本計画においては、目指す環境像の実現のため、5つの基本方針を定め、ゼロカーボンシティの実現及びSDGsの環境に関するターゲットの達成を見据えながら施策を展開していきます。

### 1. 脱炭素に向けた地球にやさしい社会の構築

日常生活や事業活動から生じる環境負荷は、地球環境に様々な影響を及ぼしています。このため、次の3項目を施策の方向として位置づけ、脱炭素に向けた地球にやさしい社会の構築を目指します。

- ①地球温暖化防止対策を推進する
- ②省エネルギーの取り組みを徹底する
- ③エネルギーの有効利用と地産地消を推進する



### 2. 限りある資源を大切にした循環型社会の形成

日常生活や事業活動でのごみ処理問題は、正しく分別し再資源化することにより環境負荷の低減につながります。このため、次の3項目を施策の方向として位置づけ、限りある資源を大切にした循環型社会の形成を目指します。

- ①ごみの排出量を抑制する
- ②ごみの再資源化を推進する
- ③ごみを適正に処理する



### 3. 美しい自然との共生

森林や農地、豊かな水資源などの自然環境は、いきものや植物を育む貴重な資源です。このため、次の3項目を施策の方向として位置づけ、美しい自然との共生を目指します。

- ①いきもや植物との共生を図る
- ②身近な自然とふれあう
- ③森林・農地・河川を保全する



## 4. 安全で快適に暮らせる環境づくりの推進

豊かな自然を将来にわたって維持し、その自然の中で人々が優しさや思いやり、豊かな感性を育み、そして、そのような心を持った人たちによって、環境を地球規模で考え、身近なところから環境保全等に取り組んでいくまちを目指すため、本市が目指す環境像と基本方針を次のように定めます。

- ① まちをきれいにする
- ② 公害の発生を未然に防ぐ
- ③ 河川や水を保全する




## 5. 環境について学び、協働するまちづくりの推進

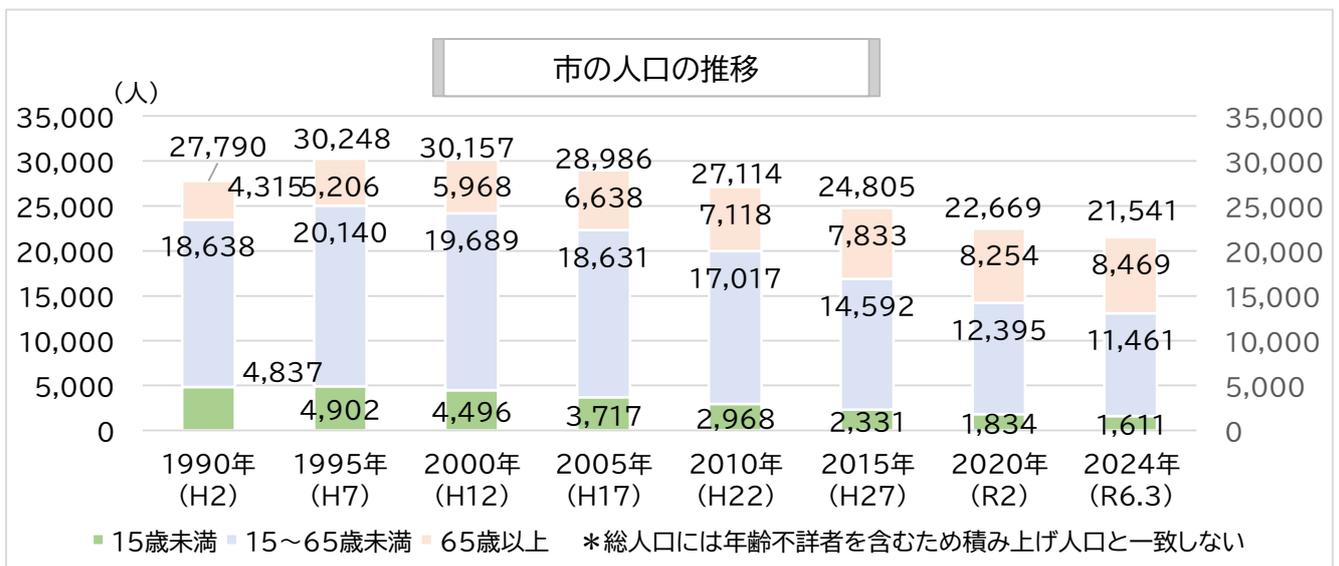
市民一人ひとりが環境に関心を持ち、環境について学ぶことが、環境に配慮する行動や取り組みを実践することにつながります。このため、次の3項目を施策の方向として位置づけ、環境について学び、協働するまちづくりの推進を目指します。

- ① 環境について学び話し合う
- ② 協働による環境活動を展開する
- ③ 環境の情報を発信する




## 上野原市の概況

本市の人口は減少傾向にあり、令和5年3月では2万2千人を割り込んでいます。また、年齢3区分別の人口割合は、15歳未満と15歳～65歳未満の人口割合が減少傾向にある一方、65歳以上は増加し、今後もこの傾向がしばらく続くと想定されます。



資料：国勢調査(R6.3のみ住民基本台帳)



## 環境の現況（大気）

山梨県が実施している大気汚染状況常時監視結果によると、市内測定局における浮遊粒子状物質（SPM）、二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）、光化学オキシダント（O<sub>x</sub>）の測定結果は以下のとおりとなります。

環境基準	
浮遊粒子状物質（SPM）	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
二酸化窒素（NO <sub>2</sub> ）	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
光化学オキシダント（O <sub>x</sub> ）	1時間値が0.06ppm以下であること。

### 年間測定（年平均）の経年変化

	単位	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
浮遊粒子状物質（SPM）	mg/m <sup>3</sup>	0.012	0.012	0.015	0.011	0.009	0.009	0.010	0.010
二酸化窒素（NO <sub>2</sub> ）	ppm	0.009	0.009	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.005
光化学オキシダント（OX）	ppm	0.031	0.035	0.031	0.032	0.031	0.033	0.030	0.031

資料：大気汚染状況常時監視結果

### 光化学スモッグ注意報発令件数

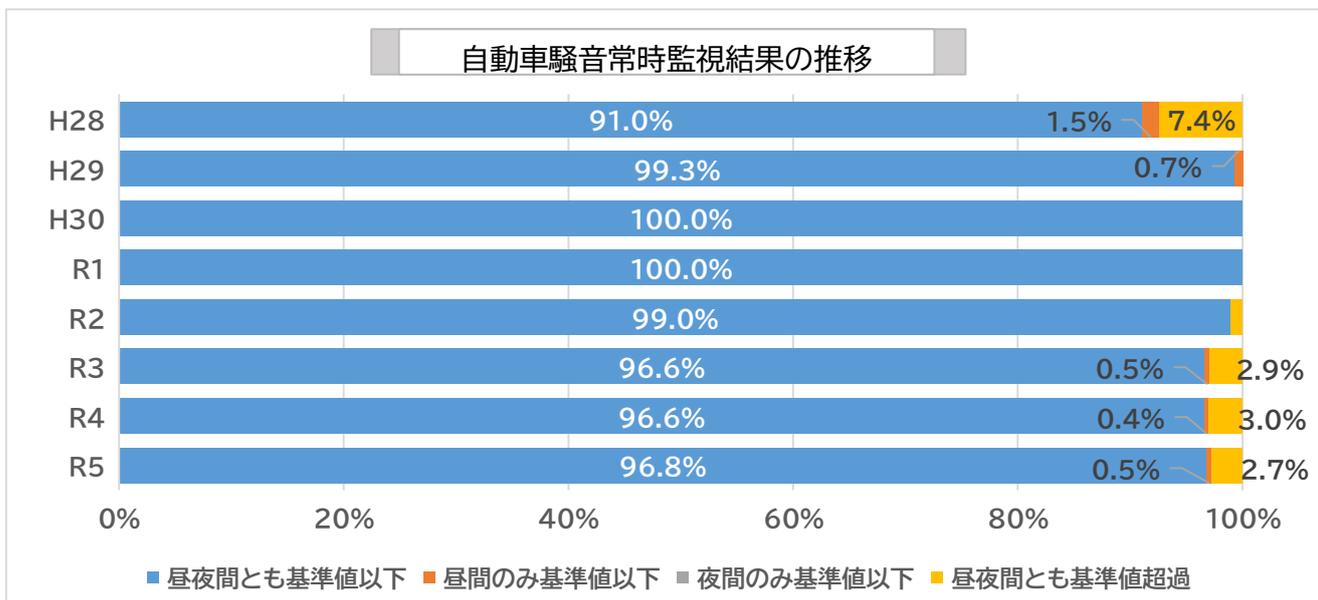
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
上野原地区	1	1	2	1	0	3	2	1

資料：大気汚染状況常時監視結果

## 環境の現況（騒音）

令和5年度の自動車騒音常時監視結果をみると、本市内の評価対象区域内のうち、昼夜間とも環境基準以下であったのは96.8%、昼間のみ基準値以下だったものは0.5%、夜間のみ基準値以下であったのは0%、昼夜間とも基準値超過であったのは2.7%でした。

自動車騒音常時監視結果の推移





## 環境の現況（水質）

毎年2回実施している市内3河川6地点の水質調査結果は、以下のとおりとなります。

鶴川(諏訪水路流末)において、各項目において他の調査地点より高い数値が確認されています。これは、水路工事に伴い河川からの流入量が減少したことが原因であると考えられます。

### 河川水質検査結果(令和6年1月調査)

河川名	調査地点	水素イオン濃度 pH(mg/L)	生物化学的 酸素要求量 BOD(mg/L)	浮遊物質量 SS(mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mgL)
鶴川	俣渡橋	7.7	0.5未満	0.5未満	27
	桂川合流地点	8.0	0.6	0.5未満	1,400
	諏訪水路流末	7.4	36	9.2	49,000
仲間川	棚頭地区	7.5	0.5未満	0.5未満	0
	八米橋	7.8	0.5未満	0.5未満	25
秋山川	下流(富岡地区)	8.0	0.5未満	0.5未満	11

資料: 上野原市水質調査

### 河川水質検査結果における生物化学的酸素要求量の変化

河川名	調査地点	R1.9	R2.1	R2.9	R3.1	R3.9	R4.1	R4.9	R5.1	R5.9	R6.1
鶴川	俣渡橋	0.5未満									
	桂川合流地点	0.8	1.6	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.8	0.5未満	0.5未満	0.7	0.6
	諏訪水路流末	0.5未満	0.9	1.2	0.8	1.3	3.1	0.6	0.5未満	0.7	36
仲間川	棚頭地区	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5未満
	八米橋	0.5未満	0.7	0.5未満							
秋山川	下流(富岡地区)	0.5未満									

資料: 上野原市水質調査



	解説
水素イオン濃度(pH)	水の酸性、アルカリ性の度合いを示す指標(河川では通常pH6.5~8.5)
生物化学的酸素要求量(BOD)	水中にある有機物を、微生物(バクテリア)が分解する時に消費する酸素の量を示し、河川の汚濁を表す場合の代表指標(河川では4mg/L程度が望ましい)
浮遊物質量(SS)	粒径2mm以下の水に溶けない懸濁性の物質をいい、粘土鉱物に由来する微粒子が普通であるが、他に動・植物プランクトンの有機物質も含まれる。通常、高い数値ほど濁ったことを示す。
大腸菌群数	大腸菌群数には、大腸菌および大腸菌と性質が似ている細菌の数をいう。し尿汚染の指標として使われている。

## 取り組み状況について

目指す環境像である「未来につなぐ」「心をつなぐ」人と自然が響き合う環境まちづくり都市うえのはらの実現に向けて令和4年度から令和13年度の10年間を計画期間として各施策を推進していきます。令和5年度については、計画2カ年度目となることから、初年度より計画した施策の実施期間という位置づけにより各担当にて取り組んでいます。

### 基本方針

### 実施施策

#### 1 脱炭素に向けた地球にやさしい社会の構築

- ・緑のカーテン(ゴーヤ)の設置
- ・クールビズ(6月、10月)、スーパークールビズ(7月～9月)の実施
- ・市役所庁舎他20施設への再生可能エネルギー由来電力の供給

#### 温室効果ガス排出削減実績及び目標値

項目	平成22年	令和4年度	令和5年度	目標値 (令和12年度)
温室効果ガス総排出量 (t-CO2)	9,442	8,640	8,496	4,627
H22からの増減率 (%)	-	▲ 8.49	▲ 10.02	▲ 51.00

資料: 上野原市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

#### 2 限りある資源を大切にしたい循環型社会の形成

- ・雑がみの資源収集を開始したことにより、これまで燃えるごみで出していた紙類のうち、リサイクルできるものを分別することでごみの減量化、資源化につなげる
- ・外部事業者と連携した不用品リユース促進及びパソコンのリサイクル事業に向けた取り組み
- ・ペットボトルの水平リサイクルに関する連携協定の締結
- ・減量化に向けた普及啓発活動
- ・市役所にブックリサイクル棚を設置

#### ごみ減量実績及び目標値

目標項目	単位	令和元年度	令和5年度	目標値 (令和7年度)	目標値 (令和13年度)
ごみ発生総量	t	9,958	8,820	8,554	7,339
家庭系ごみ	t	7,037	6,125	5,639	4,603
事業系ごみ	t	2,921	2,695	2,915	2,736
一人1日あたりの家庭系ごみ発生量	g/人日	829	796	739	666

資料: 上野原市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画及び処理実績





## 取り組み状況について

### 3 美しい自然との共生



- ・森林環境譲与税を活用し、森林整備及び所有者への森林整備実施に関する意向調査を実施  
(調査筆数:99筆、所有者数:15人、面積:43.3ha、桐原地区)
- ・カシノナガキクイムシによるナラ枯れの被害木の燻蒸処理の実施
- ・再生可能な農地を調査し、担い手の集約につながる利用状況、利用意向調査を実施
- ・森林間伐整備の実施
- ・新規就農者に対する給付金の実施
- ・鳥獣対策として、イノシシをはじめとし捕獲、駆除を実施
- ・民間事業者と大野地区において「花咲く森プロジェクト」を実施
- ・観光ボランティアガイド連絡協議会主催で登山道を整備するとともに里山の魅力発信や登山者の安全確保につなげる

### 4 安全で快適に暮らせる環境づくりの推進

- ・不法投棄防止のためのパトロール、看板の配布及び設置
- ・不法投棄の撤去作業の実施(73件、約4.8トン)
- ・市民の環境美化活動に対する手袋等の物品配布
- ・大気、水質、騒音の環境測定を実施及び数値把握
- ・猫の不妊、去勢手術の補助の実施(不妊62頭、去勢58頭)
- ・公共下水道の面整備の実施(L=760m)一部R6繰越事業
- ・浄化槽設置に関する補助の実施
- ・市内公園の維持管理の実施

### 5 環境について学び、協働するまちづくりの推進

- ・森林、林業体験教室の実施
- ・中央公民館事業として「上野原自然探検隊」の実施(活動回数10回、延べ247人参加)

## 今後の事業推進について

環境像の実現に向けて基本方針に基づき施策を推進する中で、気温や降雨などの気候要素の変化を受けて、自然環境から人間社会にまで幅広く影響を与える近年の地球温暖化については、対策に確実な進捗が必要となります。本市においての温室効果ガスの発生源は、クリーンセンターの一般廃棄物焼却が最も多く、次いで電気の使用に基づく排出が多くなっています。このことから、ごみの減量化に取り組んでいくのと同時に電力の再生可能エネルギーへの転換について検討し、実施していきます。

### 温室効果ガスの発生源別構成比

